

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
学科	版画講座	今井圭介	0.5単位 18時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>「版画」という言葉は明治の終わり頃につくられた造語です。それは版がもつ独自の表現による、版からこそ創出される画(え)ということを強く意識して生み出されたものでした。そうした版画についてルーツをたどったり実物や資料、画像をみたりしながら、より一層に理解を深めていくことを目標にします。</p>			
【講義概要】			
<p>版画の用語や技法についての解説からはじめ、浮世絵版画や日本の近・現代版画の紹介を実際の作品や資料、画像使ってわかりやすくみていきます。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	版画よもやま話①(版の表現)		
2	版画よもやま話②(版画の技法)		
3	版画よもやま話③(素材と用語)		
4	浮世絵版画①浮世絵版画のはじまり		
5	浮世絵版画②技法と制作システム		
6	日本の腐蝕銅版画と司馬江漢		
7	日本開国！横浜絵と開化絵		
8	光線画の浮世絵師・小林清親		
9	日本の近代版画と創作版画運動		
10	詩と版画		
11	東京国際版画ビエンナーレと現代版画		
12	時代の寵児・池田満寿夫		
【成績評価方法】			
<p>課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、成績評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100~95:A+ 94~80:A 79~70:B 69~60:C) 不合格(59~0:D) 仮処置:保留</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>講義・演習形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p>1959年新潟県生まれ。東京藝術大学卒業。町田市立国際版画美術館学芸員を経て町田市立博物館副館長(2012-2020年)。版画家・吉田穂高、小野忠重、博物画家・小林重三などの展覧会を企画・実施。</p>			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
選択学科	版画概論	植田爽介	1単位 9時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
この授業では現代版画とは何かを考えることを目標とします。現代版画や現代美術について多くの作品を鑑賞し、様々な作品が持つ魅力やコンセプトを知って行きます。それら作品の変遷、現代美術史に理解を深めることから個々の制作の可能性を拓けることを目標とします。			
【講義概要】			
現代美術作品、現代版画作品の鑑賞。ポップアート以降、現在に至るまでの様々な作品の鑑賞を通してその作品の魅力とコンセプトの研究を行い、現代版表現を考える。自身の作品をより理解し、制作の可能性を拓けることを目的に、個々の作品のプレゼンテーションを行う。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	授業説明(版表現について)作品鑑賞		
2	作品鑑賞		
3	作品鑑賞		
4	作品鑑賞		
5	p		
6	作品プレゼンテーション		
【成績評価方法】			
課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、成績評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100~95:A+ 94~80:A 79~70:B 69~60:C) 不合格(59~0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
講義・演習形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
1949年鳥取県生まれ。多摩美術大学大学院修了。第45回版画展版画協会賞、毎日現代日本美術展東京都現代美術館賞、World Print Competition最高賞、山口源大賞。元多摩美術大学客員教授。日本版画協会会員。			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科屋間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	ドローイングと製本	鈴木吐志哉	1単位 33時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>版画制作から離れ、ドローイング制作に集中する時間とする。版画の技法に制約されることなく、様々な支持体や素材を試す事で多角的に各自の表現を研究する。</p>			
【講義概要】			
<p>サイズ・支持体・素材・枚数・他。各自の判断で選択して制作。版表現から一旦離れ、自由な表現を繰り返す中から自分の作品について考える授業である。今回は特に多くの枚数をこなすことで、失敗を恐れずに制作する楽しみを存分に意識する期間とする。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	ドローイング制作		
3	ドローイング制作		
4	ドローイング制作		
5	中間講評会		
6	ドローイング制作		
7	ドローイング制作		
8	ドローイング制作		
9	ドローイング制作		
10	ドローイング制作		
11	講評会		
【成績評価方法】			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100~95:A+ 94~80:A 79~70:B 69~60:C) 不合格(59~0:D) 仮処置:保留</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p>1968年東京都生まれ。創形美術学校研究科版画課程修了。アーティスト・イン・レジデンス アートスタジオ五日市滞在。2002年文化庁芸術家国内研修員。現代日本美術展(神奈川県立近代美術館賞)。日本版画協会展(準会員佳作)。飛騨高山現代木版画ビエンナーレ(大賞)、SUVREMENA JAPANSKA G RAFIKA、国際木版画会議-木版ぞめき-、TRIBUNA GRAPHIC 2015、中日現代版画展 他、(社)日本版画協会会員。 版画学会会員。</p>			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	イラストレーションA	須田浩介	2単位 42時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>イラストレーターがクライアントワークで行うアイデア出しラフの提出などのプロセスを活かし制作に取り組みアーティストとしてもイラストレーターとしても必要なコンセプトと作品表現とを繋げる力を伸ばす。アナログ画材を使用し与えられた枠組みの中で作品を制作する上で個々の持つ個性や表現を活かしながらより魅力的な作品表現となる様に作品を描く上でのコンセプトと「何故」をよく考えながら表現に繋げ自分の表現や世界観をブランディングしていく為の授業です。</p>			
【講義概要】			
<p>4枚の作品を描く。描くテーマは各自で決めて良いです。自分なりに表現のフォーマットを考えてから描く。描くもののテーマ、コンセプト、発表する際のブランディングを意識する。 テーマ例、四季、トランプ、方角、喜怒哀楽、etc 分かりやすいので4にまつわるものを例に出しましたが別にそこはそんなに意識しなくても良いです。自分の好きな物事などに絡めて自分の表現の枠で4枚描く。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	課題1制作		
3	課題1制作		
4	課題1制作		
5	課題2制作		
6	課題2制作		
7	課題2制作		
8	課題1、2講評		
9	課題3制作		
10	課題3制作		
11	課題3、4制作		
12	課題4制作		
13	課題4制作		
14	講評会		
【成績評価方法】			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100~95:A+ 94~80:A 79~70:B 69~60:C) 不合格(59~0:D) 仮処置:保留</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p>イラストレーター。2008年創形美術学校ビジュアルデザイン科卒業、同年シテデザールに派遣。2008年~2013年フリーアートマガジンS発行、雑誌・装画・ポスター等の仕事を手がけ、アクリル絵の具を使ったファッション感のある人物、動物等を主に描く。跡見学園女子大学イラスト非常勤講師。</p>			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	リトグラフ	中村真理	3単位 84時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
講義、実習を通してリトグラフの製版方法や刷りの行程を学び理解を深め、リトグラフの特性を活かした制作を行う。			
【講義概要】			
リトグラフの特性を利用し、個々の表現したいテーマに基づき制作する。4版種の中でリトグラフの版作りは彫るのではなく「描く」という行為に最も近い版、ドローイングの様に手を動かして版づくりを行い自分自身で体験しながらリトグラフの仕組みを学んでいく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、下絵制作	17	製版、刷り
2	描画の進め方、見当の説明、製版のデモ	18	製版、刷り
3	刷りのデモ、版の準備	19	製版、刷り
4	描画	20	製版、刷り
5	描画	21	製版、刷り
6	描画	22	製版、刷り
7	描画	23	製版、刷り
8	描画	24	製版、刷り
9	紙の準備(いづみ)	25	本刷り
10	白黒1版の製版(全員)	26	本刷り
11	白黒1版刷り(全員)、片付け、鑑賞、	27	本刷り
12	描画	28	講評会
13	描画		
14	描画		
15	描画		
16	ベタ版のデモ、描画		
【成績評価方法】			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100~95:A+ 94~80:A 79~70:B 69~60:C) 不合格(59~0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
1988年埼玉県生まれ。武蔵野美術大学大学院版画コース修了。2013年日本版画協会第81回版画展山口源新人賞、第39回全国大学版画展収蔵賞、2015年武蔵野美術大学卒業・修了制作展優秀賞、第87回版画展準会員優秀賞(社)日本版画協会会員。			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	石版画	板津 悟	1単位 30時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
講義、実習を通して石版画の歴史や技術を学び、平版の仕組みを体感しながら石版石の特徴を活かした制作を行う。			
【講義概要】			
石版石を版材として使える様な状態にするまでの作業工程も含めて、素材との対話を大切にしながら個々の表現を考える。作品はモノトーンとし、一つ一つの行程を把握する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、研磨		
2	描画		
3	描画指導		
4	描画指導		
5	描画指導		
6	描画		
7	描画		
8	製版、刷り		
9	製版、刷り		
10	講評会		
【成績評価方法】			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100~95:A+ 94~80:A 79~70:B 69~60:C) 不合格(59~0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
1958年岐阜県生まれ。21歳で渡米、シアトルの大学で絵を学び、後にプリンターへ転向。リトグラフのプリンター養成工房としてはアメリカ随一と言われていた。タマリンド石版画研究所に入る。その後日本に帰国、1987年にイタズ・リトグラフィック(Itazu Litho-Grafik)を設立。国内外の作家と共同により多くの作品を制作。			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科屋間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	シルクスクリーン	東樋口徹	2単位 78時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>シルクスクリーン版画制作を通して孔版画の専門的知識を習得し、自己表現に結びつくよう学習します。基本の直接製版方法を重ねて実習し環境にやさしい水性インクを使用し刷紙に刷ります。PCを使用した4色分解による4版4色の作品(18×25cm位)を1点、5版以上を使った作品(25×38cm位)を1点制作、色を刷り重ねる時の表現効果、用具資材の正しい使い方、手順を覚え多彩な効果を会得していきます。</p>			
【講義概要】			
<p>基本的な水性インクで紙に刷る4版4色を使った作品(A4/21cm×29.7cm)を一点(紙4枚程度)、5版以上を使った作品(A3/29.7cm×42cm)を一点(紙8枚程度)制作。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション・技法説明	17	制作
2	技法説明(PCを使用した4色分解)	18	制作
3	製版説明	19	制作チェック
4	刷り方説明	20	制作
5	制作	21	制作
6	色々な刷り方説明	22	制作
7	制作	23	制作チェック
8	制作チェック	24	制作
9	制作	25	制作
10	制作	26	講評会
11	制作チェック		
12	制作		
13	制作チェック		
14	制作		
15	制作		
16	制作		
【成績評価方法】			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p>			
<p>1975年奈良県生まれ。2006年東京藝術大学美術研究科修了。2005年第3回山本鼎版画大賞展準大賞、2007年Prints Tokyo 2007買上賞(三極)、2009年The 2nd NBC MESHTEC TOKYO INTERNATIONAL SCREEN PRINT BIENNIAL 優秀賞。2015アワガミ国際ミニプリント展大賞。(社)日本版画協会会員。</p>			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	木版画	鈴木吐志哉	3単位 93時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>1年次の「専攻別ワークショップ(版画専攻)」で体験した水性木版画1版単色をこの授業ではさらに多色木版画に展開していくことで、木版画技法の充実と色彩について研究します。水性多色木版画の技法は浮世絵に見られるように日本独自の進化を遂げた技法でもあります。古来からの技法と現代の技法を駆使して自由な発想で制作してもらいます。・版木サイズ300×225mm(4～5版多色)</p>			
【講義概要】			
<p>水性多色木版画の作品の制作および基本技術と技法の展開。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	制作準備～制作エスキース	17	様々な摺り 一摺り方による作品の展開一
2	コラグラフの制作(素材を考える)	18	彫版～試摺り
3	コラグラフの制作	19	彫版～試摺り
4	コラグラフの制作	20	再彫版
5	コラグラフの刷り(木版画への応用)	21	再彫版
6	木版画について	22	彫版～試摺り
7	木版画下図準備	23	彫版～試摺り
8	トレースについて	24	彫版～試摺り
9	様々な彫り(コラグラフを参考に)	25	再彫版
10	彫版	26	再彫版
11	彫版	27	彫版～本摺り
12	様々な摺り 一摺り方による効果一	28	彫版～本摺り
13	彫版～試摺り	29	彫版～本摺り
14	和紙の話、彫版～試摺り	30	彫版～本摺り
15	彫版～試摺り	31	制作～講評
16	彫版～試摺り		
【成績評価方法】			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1968年東京都生まれ。創形美術学校研究科版画課程修了。アーティスト・イン・レジデンス アートスタジオ五日市滞在。2002年文化庁芸術家国内研修員。現代日本美術展(神奈川県立近代美術館賞)。日本版 画協会展(準会員佳作)。飛騨高山現代木版画ビエンナーレ(大賞)、SUVREMENA JAPANSKA G RAFIKA、国際木版画会議-木版ぞめき-、TRIBUNA GRAPHIC 2015、中日現代版画展 他、(社)日本版画協会会員。 版画学会会員。</p>			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科屋間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	木口木版画	長島 充	2単位 45時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>木口木版画は、18世紀頃ヨーロッパで完成された木版画の技法である。柘植、椿等の堅牢な木材の木口の面を、ビュランという彫刻刀で彫り進んでいく木口木版画の技法は、白と黒との精緻な表現に適している。本実習では、版画の技法の中でもとりわけ単純で明快な、彫って摺るという行為に重点を置く。原初的な彫版の作業の中で制作者は自分自身の素直な表象と出会う実習である。</p>			
【講義概要】			
<p>テーマ=自由制作</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション、木口木版画の説明		
2	木口木版画の制作の準備		
3	ビュランの研ぎ方		
4	版木への下絵の転写の方法		
5	参考作品の鑑賞		
6	木口木版画の制作のプロセスの説明		
7	彫り		
8	彫り		
9	彫り、試し摺り(雁皮摺り、直摺りの検証)		
10	制作		
11	制作		
12	制作指導		
13	制作指導		
14	制作		
15	講評		
【成績評価方法】			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100~95:A+ 94~80:A 79~70:B 69~60:C) 不合格(59~0:D) 仮処置:保留</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p>1959年千葉県生まれ。創形美術学校研究科版画課程修了。1984年～日本版画協会展出品(以後毎年)、R.O.C.国際版画・素描ビエンナーレ版画部門銀賞、カブラム国際版画ビエンナーレ名誉メダル賞、日本版画協会展進会員賞、イビザ国際版画ビエンナーレ最高賞、環太平洋国際版画展2011特別賞受賞。その他国際版画展、美術館企画展多数出品。(社)日本版画協会会員。</p>			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科屋間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	銅版画	馬場知子	3単位 99時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
銅版画の制作プロセスを修得し、作品を完成させます。銅版画には様々な技法がありますが、エッチングを中心に物質の変容と結びついた腐食技法の多様な表現に触れます。版を媒介することで生じる他者性を柔軟に取り入れながら自分の表現の世界を広げましょう。			
【講義概要】			
まずテストプレートで様々なマチエール表現を試しながら「道具、薬品の使い方」「描画」「製版」「刷り」の作業工程を理解し体得していきます。本作では自分のイメージの具現化に必要な表現や技法を選択し制作します。(わからないことはなんでも聞いてください。安全に楽しく制作しましょう)			
回	授業計画及び学習の内容		
1	説明 小作品(テストプレート)制作	18	本制作 (加筆、刷り)
2	説明 小作品制作	19	本制作 (加筆、刷り)
3	小作品制作 本作品準備説明	20	本制作(試し刷り)
4	小作品制作 本制作準備	21	本制作 (加筆、刷り)
5	本制作準備(エスキースを仕上げる)	22	本制作 (加筆、刷り)
6	エスキースチェック、本制作スタート	23	本制作(試し刷り)
7	本制作 (描画、腐蝕)	24	本制作(試し刷り)
8	本制作 (描画、腐蝕)	25	本制作 (本刷り)
9	本制作 (描画、腐蝕)	26	本制作 (本刷り)
10	本制作 (描画、腐蝕)	27	本制作 (加筆、刷り)
11	本制作 (描画、腐蝕)	28	本制作 (加筆、刷り)
12	本制作 (描画、腐蝕)	29	本制作 (本刷り)
13	本制作(試し刷り)	30	本制作 (本刷り)
14	本制作(試し刷り)	31	本制作 (本刷り)
15	本制作 (加筆、刷り)	32	本制作 (本刷り)
16	本制作 (加筆、刷り)	33	講評会
17	本制作 (加筆、刷り)		
【成績評価方法】			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100~95:A+ 94~80:A 79~70:B 69~60:C) 不合格(59~0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1991年女子美術大学芸術学部絵画科版画専攻卒業。1992年同大学研究生修了。2000年文化庁芸術インターンシップ研修員。日本版画協会展(畦地梅太郎賞)、Trois-Riviere国際現代版画ビエンナーレ、文化庁現代美術選抜展、文化庁買上優秀美術作品披露展、高知国際版画トリエンナーレ(優秀賞)、(社)日本版画協会会員。			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科屋間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	銅版直刻	馬場知子	2単位 42時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>腐食法銅版画とは異なり、ダイレクトに銅板を彫っていく、この技法ならではの醍醐味と、そのことによって現れる瑞々しく暖かい線描の魅力や深い黒色の美しさを制作を通して体験し自己の表現として会得して貰いたい。</p>			
【講義概要】			
<p>「人間像」というテーマでモノクロ直刻法銅版画を1点制作する(但し「自画像」は特別な意味を持つので不可)。家族、友人、など身近な人物、都会を行き交う人たち、イメージの中の想像上の人物、etc.広い意味での「人間」というものをとらえてください。雑誌や写真などの人物からの転用もよいが、その場合、絵の中で構成し直すこと。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	ガイダンス・下絵トレース～彫版		
2	描画		
3	描画		
4	描画		
5	試し刷り～彫版指導		
6	描画		
7	描画		
8	描画		
9	彫版指導～印刷説明		
10	彫版		
11	本刷り指導		
12	刷り		
13	刷り		
14	講評会		
【成績評価方法】			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合、成績評価の対象外となる。 合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p> <p>1991年女子美術大学芸術学部絵画科版画専攻卒業。1992年同大学研究生修了。2000年文化庁芸術インターンシップ研修員。日本版画協会展(畦地梅太郎賞)、Trois-Riviere国際現代版画ビエンナーレ、文化庁現代美術選抜展、文化庁買上優秀美術作品披露展、高知国際版画トリエンナーレ(優秀賞)、(社)日本版画協会会員。</p>			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	イラストレーションB	今野樹里恵	2単位 54時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>テーマに基づくイラストレーション制作を修得します。一つの世界観で一連の作品を制作すること、自分の内面を表現するだけでなく外的要因(文学)に応じて制作をすることで、既存の表現に囚われずに新しい自分だけの表現を目指します。</p>			
【講義概要】			
<p>文学にまつわる挿絵を連作(サイズに応じて3~5カット)で制作する。装丁や挿絵などで既存イメージができていた文学を、自分だけの表現方法で再構成すること。更に連作で制作することによって世界観を確固たるものとして表現することを学ぶ。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	17	制作
2	制作	18	講評会
3	制作		
4	制作		
5	制作		
6	制作		
7	制作		
8	制作		
9	制作		
10	制作		
11	制作		
12	制作		
13	制作		
14	制作		
15	制作		
16	制作		
【成績評価方法】			
<p>課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100~95:A+ 94~80:A 79~70:B 69~60:C) 不合格(59~0:D) 仮処置:保留</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p>			
<p>1996年埼玉県川越市生まれ。2018年創形美術学校ファインアート科版画専攻卒業。個展・グループ展・企画展など多数。2018年 ACT ART大賞展 プリント部門2位。2021年第5回アワガミ国際ミニプリント展 入選。2022年MINI PRINT INTERNATIONAL OF CADAQUÉS 2022 入選(スペイン)。2023年IAG AWARD 2023 栗原画廊賞。銅版画家、作家。</p>			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	リソグラフ	尾形愛	2単位 57時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
リソグラフ印刷機の使用方法の習得を通して作品制作に応用し、自身の制作方法の幅を広げることを模索する。			
【講義概要】			
リソグラフ印刷機の使用方法をすべての工程で実践していく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	17	本刷り
2	リソグラフ印刷機使用方法説明	18	本刷り
3	下絵制作	19	講評会
4	下絵制作		
5	下絵制作チェック		
6	原稿制作		
7	原稿制作		
8	原稿制作		
9	リソグラフにて製版作成		
10	リソグラフにて製版作成		
11	試し刷り		
12	試し刷り		
13	試し刷り		
14	再描画		
15	再描画		
16	リソグラフにて製版作成		
【成績評価方法】			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100~95:A+ 94~80:A 79~70:B 69~60:C) 不合格(59~0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 1990年 東京都生まれ。東京造形大学大学院修了。2018年SUNDAY GROUP SHOW(SUNDAY/東京)。第7回山本鼎版画大賞展(上田市立美術館/長野)。2019年個展(dish tokyo gastronomy cafe/東京)、第5回宮本三郎記念デッサン大賞展(宮本三郎記念美術館 石川/東京)。2020年グループ展(スパイラル/東京)			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科 昼間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	詩と表現	田野倉康一	1単位 21時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
<p>毎回、授業の最初に講師が同時代の詩を朗読、紹介するとともに、講義においては、詩に対する理解を深めることにより、ファインアート、デザインの実践に、言葉の側面から寄与したい。また、その目的において、詩の実技指導も行う。</p>			
【講義概要】			
<p>受講者がそれぞれに詩に触れ、受容し、詩作することを通して、他人の言葉に左右されることなく、ファインアートやデザインの実践の中で言葉とうまく付き合っていけるようになること。</p>			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション		
2	詩とはなにか。あるいは詩の現在について		
3	詩と美術・詩とデザイン		
4	詩の作り方・実技指導		
5	実技指導		
6	実技指導		
7	講評会		
【成績評価方法】			
<p>課題の提出を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合、成績評価の対象外となる。 合格:(100~95:A+ 94~80:A 79~70:B 69~60:C) 不合格(59~0:D) 仮処置:保留</p>			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
<p>講義・ディスカッション形式を基本とするが、各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。</p>			
<p>1960年生まれ。明治大学文学部文学科フランス文学専攻卒、2002年第13回歷程新鋭賞受賞、現代詩文庫『田野倉康一詩集』をはじめ、単行詩集5冊、共著4冊、編書1冊のほか、山田正亮展(東京国立近代美術館)、イケムラレイコ展(ヴァンジ彫刻庭園美術館)など展覧会のカタログテキストの執筆多数。</p>			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部(3年制)	2025年度	2年版画期／後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	製本実習	山口茉莉	1単位 21時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
簡易なノート制作と、自分だけの上製本を制作します。			
【講義概要】			
本の造り、紙の持つ性質を学び、実際に製本する過程を通して「本」そのものの価値を考えます。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	概要説明/(ノート作成)		
2	上製本制作(本文を綴る)		
3	上製本制作(布の裏打ち)		
4	上製本制作(仕上げ)		
5	簡易製本(イラスト制作)		
6	簡易製本(綴じる)		
7	講評会		
【成績評価方法】			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100～95:A+ 94～80:A 79～70:B 69～60:C) 不合格(59～0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。 2006年女子美術大学芸術学部絵画学科卒業。2008年同大学院研究領域版画修了。2015年英国JADE BOOKBINDING STUDIOにて研修。近年は「空想建築」を主題として平版画、陶、製本の技術を生かしたミクストメディア作品等を制作発表している。(社)日本版画協会準会員。			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	技法と表現A	鈴木吐志哉 東樋口徹 中村真理 馬場知子	2単位 63時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
基本4版種から各自が選択した技法による制作。			
【講義概要】			
前期に行った版画基本4版種(シルクスクリーン、銅版画、リトグラフ、木版画)から各自で技法を選択し、画材の購入の仕方、取り扱い等を学びながら自由に制作してもらいます。 ・作品サイズに指定は特にないが、小作品で数多く刷りの経験を重ねる事を推奨する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	18	制作
2	個人面談	19	制作
3	個人面談	20	制作
4	個人面談	21	講評会
5	個人面談		
6	制作		
7	制作		
8	制作		
9	制作		
10	中間講評		
11	制作		
12	制作		
13	制作		
14	制作		
15	中間講評		
16	制作		
17	制作		
【成績評価方法】			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100~95:A+ 94~80:A 79~70:B 69~60:C) 不合格(59~0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
鈴木 吐志哉:1968年東京都生まれ。創形美術学校研究科版画課程修了。アーティスト・イン・レジデンス アートスタジオ五日市滞在。2002年文化庁芸術家国内研修員。現代日本美術展(神奈川県立近代美術館賞)。日本版画協会展(準会員佳作)。飛騨高山現代木版画ビエンナーレ(大賞)、SUVREMENA JAPANSKA G RAFIKA、国際木版画会議-木版ぞめき-、TRIBUNA GRAPHIC 2015、中日現代版画展 他、(社)日本版画協会会員。版画学会会員。 東樋口 徹:1975年奈良県生まれ。2006年東京藝術大学美術研究科修了。2005年第3回山本鼎版画大賞展準大賞、2007年Prints Tokyo 2007賞上賞(三極)、2009年The 2nd NBC MESHTEC TOKYO INTERNATIONAL SCREEN PRINT BIENNIAL優秀賞。2015アワガミ国際ミニプリント展大賞。(社)日本版画協会会員。 中村 真理:1988年埼玉県生まれ。武蔵野美術大学大学院版画コース修了。2013年日本版画協会第81回版画展山口源新人賞、第39回全国大学版画展収蔵賞、2015年武蔵野美術大学卒業・修了制作展優秀賞、第87回版画展準会員優秀賞(社)日本版画協会会員。 馬場 知子:1991年女子美術大学芸術学部絵画科版画専攻卒業。1992年同大学研究生修了。2000年文化庁芸術インターンシップ研修員。日本版画協会展(駐地梅太郎賞)、Trois-Riviere国際現代版画ビエンナーレ、文化庁現代美術選抜展、文化庁買上優秀美術作品披露展、高知国際版画トリエンナーレ(優秀賞)、(社)日本版画協会会員。			

創形美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
美術造形専門課程	ファインアート科昼間部(3年制)	2025年度	2年版画専攻・後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
実技	技法と表現B	鈴木吐志哉 東樋口徹 中村真理 馬場知子	2単位 225時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
基本4版種から各自が選択した技法による制作。			
【講義概要】			
前期に行った版画基本4版種(シルクスクリーン、銅版画、リトグラフ、木版画)から各自で技法を選択し、画材の購入の仕方、取り扱い等を学びながら自由に制作してもらいます。 ・作品サイズに指定は特にないが、小作品で数多く刷りの経験を重ねる事を推奨する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	オリエンテーション	18	制作
2	制作	19	制作
3	制作	20	中間講評
4	制作	~25	個別指導
5	制作	~30	個別指導
6	制作	~35	個別指導
7	制作	~40	個別指導
8	制作	~45	中間講評
9	制作	~50	個別指導
10	中間講評	~55	個別指導
11	制作	~60	個別指導
12	制作	~65	個別指導
13	制作	~70	個別指導
14	制作	~75	講評会
15	制作		
16	制作		
17	制作		
【成績評価方法】			
課題作品を100点満点として採点する。授業への参加・意欲などを考慮し、総合評価を行う。 なお出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となる。 合格:(100~95:A+ 94~80:A 79~70:B 69~60:C) 不合格(59~0:D) 仮処置:保留			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技演習形式を基本とする。各回で幾つかの課題を課して習熟度を検証する。			
鈴木 吐志哉:1968年東京都生まれ。創形美術学校研究科版画課程修了。アーティスト・イン・レジデンス アートスタジオ五日市滞在。2002年文化庁芸術家国内研修員。現代日本美術展(神奈川県立近代美術館賞)。日本版画協会展(準会員佳作)。飛騨高山現代木版画ビエンナーレ(大賞)、SUVREMENA JAPANSKA G RAFIKA、国際木版画会議-木版ぞめき-、TRIBUNA GRAPHIC 2015、中日現代版画展 他、(社)日本版画協会会員。版画学会会員。 東樋口 徹:1975年奈良県生まれ。2006年東京藝術大学美術研究科修了。2005年第3回山本鼎版画大賞展準大賞、2007年Prints Tokyo 2007賞上賞(三極)、2009年The 2nd NBC MESHTEC TOKYO INTERNATIONAL SCREEN PRINT BIENNIAL優秀賞。2015アワガミ国際ミニプリント展大賞。(社)日本版画協会会員。 中村 真理:1988年埼玉県生まれ。武蔵野美術大学大学院版画コース修了。2013年日本版画協会第81回版画展山口源新人賞、第39回全国大学版画展収蔵賞、2015年武蔵野美術大学卒業・修了制作展優秀賞、第87回版画展準会員優秀賞(社)日本版画協会会員。 馬場 知子:1991年女子美術大学芸術学部絵画科版画専攻卒業。1992年同大学研究生修了。2000年文化庁芸術インターンシップ研修員。日本版画協会展(駐地梅太郎賞)、Trois-Riviere国際現代版画ビエンナーレ、文化庁現代美術選抜展、文化庁買上優秀美術作品披露展、高知国際版画トリエンナーレ(優秀賞)、(社)日本版画協会会員。			